

院内だより

2018年2・3月
No.290

総合医療センター 8階東病棟紹介

【はじめに】

消化器内科は、口腔から肛門までの消化管と、消化に関係する臓器を診る診療科です。急性期から終末期まで、幅広い年齢層の患者が入院されています。そして、内視鏡的治療が進歩したことで、内科と外科が混在したような診療科になります。そこでは、医師をはじめ看護師、介護福祉士、ケアアシスタント、医療秘書、医事課事務員が協力しながら働いています。昨年からは若林先生、角田先生の2名体制となり疲労を極めていましたが、外科医師の協力を頂き診療を進めています。

【病棟紹介】

8階東病棟は、全員で楽しく仕事をすることをモットーにしています。ワークライフバランスで、働く時間のスタイルが全国的に話題になっていますが、3交替勤務をしている看護師にとって選択の余地はありません。そこで、いかにモチベーションを下げないで仕事を続けられるかが課題になります。楽しい職場、働き続けられる職場を目指すため、取り組みを続けてまいりました。その取り組みをご紹介します。

看護部全体で新人教育に力を入れています。病棟も指導案を作成し指導しています。全員が指導者となるため進捗状況を理解できるよう、ファイルに意見を書き込み確認できるようにしています。特に重点指導が必要な技術は、朝礼時呼びかけています。2年時・3年時の看護師は、フォローをつけながらプライマリー看護師の関わりを通して育成しています。そこで活躍しているのが超ベテランの看護師です。看護技術は勿論ですが、社会人として接遇や個人の成長にも関与している頼もしい存在です。中堅看護師は働きやすい職場環

境を目指し努力しています。そして、患者がその人らしく療養生活を送るために何が必要か、看護師としてどう関わるべきか、議題を提供しています。時にヒートアップすることもあります。率直に意見交換できる環境にある証だと考えています。

仕事を離れ楽しみたいとの希望から、日帰りバス旅行を3年間続けています。関係部署にも声をかけ希望者で実施しています。日帰りですが貸切バスの中では、同級会や女子会、子ども会などの声が聞かれます。昨年は、大洗水族館のイルカショーで「家族旅行でもこんなに笑ったかしら?」というくらい大笑いしました。職種を越えて交流できたことで一体感が湧きました。

病院の運動会や忘年会で、エンターテイナーを發揮したスタッフもいました。それぞれが自分の持ち味で病棟を活性化しています。お二人の先生方も、多方面で協力していただきます。

【おわりに】

当科に入院される患者の中には、残念ながら回復が望めない方も多数いらっしゃいます。患者と家族が穏やかな時間を過ごせるよう、今後も医師をはじめ多職種で努力していきたいと思えます。そしてスタッフも多大なストレスを抱えています。個人で抱え込まず、全員が解決に向け協力体制がとれる、そんな安心できる病棟です。

